

研究授業「児童学研究法」の実施

松原勝敏*

The reflection of an open class of “Method of study on Education”

Katsutoshi Matsubara

Abstract

This paper is the record of an open class performed in the Faculty of Education and Human development of Takamatsu University.

About the open class performed by Matsubara, this paper records the outline and aims at considering as future study materials.

The main contents of this paper are the aim of a lesson, the method of guidance, a teaching plan, and the points of a lesson on the day.

key word: an open class, lesson research

はじめに

本稿は、高松大学発達科学部子ども発達学科で行われた「児童学研究法」の研究授業の記録である。本稿は、本稿を執筆する松原が担当して行った研究授業について、その概要を記録し、今後の研究資料とすることを目的とするものである。

1. 研究授業の実施

児童学研究法の研究授業と検討会は、次の日程で実施された。

(1) 研究授業

日時：2006年7月12日（水） 4校時（検討会：5校時）

場所：E309号教室

科目：児童学研究法（子ども発達学科1年生対象）

担当：松原勝敏

(2) 検討会

日時：2006年7月12日（水） 5校時

場所：E404演習室

2. 子ども発達学科における児童学研究法開設の目的と教育目標

児童学研究法は、高校までの授業と大学の授業では、その内容や方法が大きく異なることから、大学教育へ不適応を来してしまう学生への対策として設けられた科目である。そのため、指導内容は、レポートのまとめ方・書き方や提出の方法、資料の探し方や研究の進め方、レジュメ作成の方法や発表の方法などについて演習を行い、大学教育へのスムーズな移行をねらっている。具体的な教育目標は、本学のシラバスに次の通り示している。

「この授業では、自主的な学習態度を形成し、問題発見能力を開発するとともに問題をとらえる視点の多様性の理解を図ります。また、実際に保育に関する各種のレポートを作成したり、調査研究の演習・発表・討議を通じて、文献資料の収集方法（図書館の利用方法を含む）の習得、読解力と文章構成力を高め、保育者にとって必要な発表や討論の方法を習得していただきます。これらの演習を通して、学生と教員、あるいは学生同士の自由な語り合いの下地を作り、ゼミをはじめとする教育研究のより一層効果的な実現を目指します。そして、将来保育者・教育者に求められる自己研修能力の基盤を形成し、総合演習・卒業論文へとバトンタッチします。」

3. 研究授業実施に至るまでの学習活動

ここでは、授業の各回における学習目標とねらいを示す。なお、具体的な授業の実際については、本稿末に指導案を掲載するのでご参照いただきたい。なお、第6講以降では図書館で資料の検索・資料の検討・討議・まとめなどの作業中心であり、板書をしていないので、板書計画の欄は空白になっている。

第1講 オリエンテーション（4月12日）

「自らの習慣化された固定的な物の見方に気づく」「これからの学習に対する意欲をかき立てる」ことを目標に、多角的な物の見方や考え方の重要性を学生に気づいてもらう

とともに、授業の全体像を学生に提示した。

第2講 レポート作成（1）（4月19日）

「レポートの種類とその意味を知る」「客観的な文章を書く」ことを目標に、レポート作成の方法について概略を説明した。また、記述に当たって、正確かつ客観的な記述の重要性を指摘した。そして、実際にレポート作成を行って提出することを学生に課した。

第3講 レポート作成（2）（4月26日）

「レポートの作法を学び、きちんと体裁の整ったレポートを提出できるようにする」ことを目標に、学生から提出されたレポートの中から数点を選んでクラス全体で検討会を行った。その後、テキストを参照しながら、きちんとした文章を書くためのポイントを解説した。

第4講 研究開始！（5月10日）

「研究の流れを把握し、今後の構想を立てる」「資料の探し方を理解する」ことを目標に、研究論文を作成することの意義を解説し、ビデオ『新・図書館の達人2』を利用して、資料の探し方の理解を図った。

また、各ゼミごとに研究課題を課した。学生には、ゼミに与えられた課題を個々に調べ、レポートをまとめて第6講（5月24日）の授業時に持参するように指示を与えた。

第5講 マスコミ情報の批判的検討（5月17日）

「TV番組を批判的に検討し、偏見や思いこみに左右される自分に気づく」「情報を無批判に信じ込まないような姿勢を身につける」ことを目標に、一般に人気のあるテレビ番組を録画したビデオを学生に見せて、クラス全体で内容の真偽を検討することを通して、情報を鵜呑みにすることの危険性を学生が認識することを目指した。

第6講 研究の方向性の決定（5月24日） この回から図書館三階を利用

「各グループが協力して、研究の構想を立てる」「研究の見通しを立てる」ことを目標に、ゼミごとに、それぞれのゼミに所属する学生が持ち寄った資料を検討して、研究の構想と見通しを立てる作業を行った。

第7講 研究の方向性の確定（5月31日）

「テーマの絞り込み、分析の視点の明確化を通じて、研究の見通しを立てる」ことを目標に、ゼミごとに発表内容の全体像を検討し、それぞれのゼミを3つのグループに分けてまとめの作業を進めた。

第8講 研究の進展（1）（6月7日）

「テーマの絞り込みを終え、内容構成を具体化する」ことを目標に、各ゼミの小グループごとに資料の検討を行った。

第9講 研究の進展（2）（6月14日）

「テーマの絞り込みを終え、内容構成を具体化する」「中間発表の準備を整える」ことを目標に、各ゼミの小グループごとに資料の検討を行った。

第10講 研究の進展（3）（6月21日）

「テーマの絞り込みを終え、内容構成を具体化する」「中間発表の準備を整える」ことを目標に、各ゼミの小グループごとに資料の検討を行った。

第11講 中間発表（6月28日）

「発表を通して、発表の方法や聴き方をまなぶ」「他の研究室のレジюмеおよび発表をみて、自分たちの研究を検討する」「磨きあう仲間意識を育む」ことを目標に中間発表を行った。発表は、それぞれのゼミごとに10分間で行い、各ゼミの発表の後に、レジюмеの内容について改善すべき点を指導した。

第12講 研究のまとめ（7月5日）

「全員で協力して、不十分な点を補う」「全員で協力して、レジюме完成のめどをつける」ことを目標に、ゼミごとに本発表会に向けたレジюме作成の打ち合わせを行った。

第13講 研究成果発表会（7月12日：本時）

「研究の発表方法を体験的に学習する」「発表会を通じて、自己の学習課題を発見する」ことを目標に発表会を開催する。本時は、発達科学部子ども発達学科研究授業として、

子ども発達学科に所属する教員の参加を要請して、学生の学習の成果を学科全体で確認する。そして、検討会では、児童学研究法のカリキュラム上の位置づけや意義、ゼミのあり方や学生指導の方法も含めて議論がなされることを期待したい。

4. 研究授業の概要

今回の研究授業は、一般的な研究授業のように、教員による学習指導を参観するという形式ではなく、児童学研究法の指導を通じてなされた学習成果を学生の発表によって子ども発達学科に所属する教員が確認するという性格のものである。授業では、児童学研究法の学習を通じてまとめたレジュメを資料として、各ゼミごとに発表を行い、各ゼミによる発表の後に質疑応答がなされた。

なお、この発表会では、司会進行を学生が務めることによって、研究会などの運営方法を学習することもねらっている。また、他学科、特に、保育学科の教員に参加を呼びかけたが、これは、保育学科のカリキュラムにもある保育学研究法の学習を通してなされる保育学科の学生の発表と比較して、学生の共通性や異質性をみてもらいたいという意図もある。

研究発表においては、一通りの発表の作法や態度の学習はできたように思う。しかしながら、レジュメをまとめる過程での、学習内容に関する理解が不十分な場合があり、十分に質問に答えることができなかった場面が見られた。

5. 児童学研究法の研究授業に対する参観者からのコメント

この項では、検討会において各教員から出された主要な意見をまとめておきたい。ただ、コメントを発した個人が特定できないように表現の一部を修正してある。また、コメントの観点については、本学の研究授業で使用している「授業参観記録」の様式に従っている。

(1) 授業を積極的に評価できる点

①教育内容に関して

- ・社会・教育の今日的な課題を研究テーマに取り上げている。
- ・調査研究の方法や研究のまとめ等のレポートの作成の基礎・基本がしっかりおさえられている。

・これまでの学習のまとめをゼミ毎に発表するという機会はきわめて貴重で、それには多大なエネルギーを要するため、学生のみならず、参加教員にとっても有益な研鑽の場となった。

・課題が全て、現在注目されていることがらであったため、学生にとって身近に感じることができ、取り組みやすかったと想像される。また、グループ研究の形式をとっていたため、「気づき」が多かっただろうとも想像される。さらに、研究成果を発表する機会（本日）があり、これを事前に周知されていたことが、学生の研究意欲を一層高めただろうと考えられる。

②授業方法に関して

- ・授業計画にそって、綿密な講義計画がなされていた。
- ・学生の実態をとらえて、板書計画まで考えられていたことはすばらしいと思った。
- ・発表の仕方や態度の指導もなされていた。
- ・適度のコントロールのなかで、自発的な雰囲気が保たれていた。
- ・調査、レジュメ作り、発表という学生主体の学習活動がなされている。
- ・学生のレポートについて、特に様式や、研究結果について、丁寧な指導が行われた結果であることが想像される。指導を行う時間をゆったりとったということが、内容の充実につながり、結果、学生の満足度にもつながったように想像される。

③その他

- ・将来教育に携わる者に求められる自己研修能力の基盤を形成し、総合演習・卒業論文への発展を念頭に置いた授業であった。
- ・発表の仕方やテクニックについては、もう少し指導の余地もあるが、入学してまだ3ヶ月であることを考えるとやむを得ないだろう。
- ・学生の楽しんでいる姿と、基礎・基本のスキルを習得するための努力が共存している。
- ・学生の表情が良好であった。
- ・グループ研究を行うことで、学生同士のつながりができたように感じる。また、レジュメ作成の際、各項目ごとに項目の責任者が記入されていた点も、グループ研究を効果的に進めることにつながったと想像される。

(2) 授業の改善にかかわる点

①教育内容に関して

- ・調査から発表にいたる間の討議（グループ内での検討）がなされた気配があまり感じ取れなかった。

②授業方法に関して

- ・学生の相互評価を取り入れることについて、検討の余地はないか？

(3) 授業全体の感想

- ・すべての面において、綿密な計画のもとに授業を展開されていた。
- ・大学の授業については、模範的な授業であり、参考になる点が多かった。
- ・学生が積極的に自信をもって、いわゆる晴れの舞台を楽しむ様子が見受けられ、基幹的な授業として、十分な成果が感じられた。
- ・チームで課題に取り組む場合、役割が分担されることになるが、その細分化された役割をこなすだけで安心してしまう傾向がありはしないか、留意すべきところかもしれない。
- ・知識が少ない学生間で議論を行わせることの困難さも、改めて感じた。
- ・最後の検討会も含めて、松原先生の周到な準備に、感謝します。

6. 児童学研究法の学習成果向上のための課題 ―まとめに代えて―

今回の研究授業は、発表会の参観という形式であったので、当日の指導上の事項に言及するのではなく、この授業をより効果的に行う上での課題について若干の問題を指摘しておきたい。

(1) 児童学研究法のカリキュラム上での位置づけと意義に関する学科内の共通認識の形成

冒頭の部分で述べたことの繰り返しになるけれども、児童学研究法は、高校までの授業と大学の授業の内容や方法が大きく異なり、それ故に、大学教育へ不適應を来してしまう学生への対策として設けられた科目である。そのために、指導内容は、レポートのまとめ方・書き方や提出の方法、資料の探し方や研究の進め方、レジュメ作成の方法や発表の方法などについて演習を行い、大学教育へのスムーズな移行をねらっている。

しかし、児童学研究法のカリキュラム上の意義については、学科内でのカリキュラムに関する研修が不十分であり、必ずしも、学科の教員共通の認識が得られているとは言い難い状況があるように感じられる。

児童学研究法で指導した事項が、他の授業科目においても反映されるように、あるいは逆に、他の授業科目で求められる事項の入門的な事項を児童学研究法での指導内容に盛り込むという要求があり得るのであり、学科内での共通認識の形成が急がれる。

(2) 児童学研究法と総合演習との関係

児童学研究法は、1年次前期の必修科目である。その一方で、学生は、1年の前期に総合演習Ⅰ、1年の後期に総合演習Ⅱを履修する。児童学研究法は、学年全体を18年度にはゼミごとに4つの研究グループに分けて指導を行ったが、総合演習もまた、ゼミごとにテーマを設定して研究・発表を行っている。それ故に、1年次前期には、同じような学習活動が、児童学研究法と総合演習でなされ、学生が別個に2つのテーマで調べ学習を進めているという状況である。

このような状況は、学生の負担増に繋がる可能性があるため、児童学研究法と総合演習の連携方策を検討していく必要があると思われる。

(3) 児童学研究法の指導過程における人的問題

児童学研究法は、現在、担当教員1名で指導をしている。わずか1名の指導教員で、すべてのグループを同時時間帯に指導することは、決して容易なことではなく、学生へのより充実した指導体制構築を目指した指導のあり方の見直しが求められる。

(4) 図書館の所蔵資料等、教育環境上の問題

児童学研究法に平行して、短期大学保育学科では、「保育学研究法」という授業科目が存在する。授業そのもののねらいや進行は、両者に共通する部分が多い。そのため、図書館の所蔵資料には限りがあるので、両者間で重複するテーマが設定された場合に、学生による図書館の借り出しによって資料が不足してしまうおそれがある。

本年度は、そのような事態に陥ることを防ぐために、両者間のテーマが重ならないように工夫したけれども、十分な成果を得たとは言い難い面がある。

児童学研究法 講義計画	対象：子1	第1講	2006年4月12日(水)
題目	オリエンテーション		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの習慣化された固定的な物の見方に気づく ・これからの学習に対する意欲をかき立てる。 		
講義内容・学習活動・指導上の留意点			
時分			
14h40	研究室単位に着席させておく 自己紹介 雑談 服装等に対する注意 など		
14h55	ちよっとお遊び <ul style="list-style-type: none"> ・黒板に点を打つー何に見えるか？ ・象になろう！ 猫になろう！ → 自分の幼稚園時代の話 ー バス、鯉のぼり → 日常的保育の振り返りー意味？子どものため？分析力、表現力！ 保護者への説明責任		
15h20	保育学研究法のカリキュラム上の位置づけ → 総合演習・卒業論文→プロの保育者・教育者（論理性、保護者への対応）		
15h30	研究発表について、評価について		
15h35	出席カード記入		
15h45	目標カード記入 「4年後の私」 セミ単位の写真撮影（Lサイズで！）		
16h05	出席カード回収、目標カード回収、受講届回収		
資料等	カード、意見カード、座席表、名簿、シラバス、レジュメ、写真、携帯tel、カメラ 等		
備考	周知会の件		

児童学研究法 板書計画	対象：子1	第1講	2006年4月12日(水)
(本日は、整理された板書をする予定はない)			
メ セ ・ 反 省 点			

児童学研究法 講義計画		対象：子1	第2講	2006年4月19日(水)
題目	レポート作成(1)			
目標	レポートの種類とその意味を知る。 客観的な文章を書く			
講義内容・学習活動・指導上の留意点				
時分				
14h40	カード・雑談 新歓セミナーについてなど			
14h50	レポートについて(pp.16-24, pp.32-42.) 「客観的に説明することということ」			
15h20	言葉の意味を問うこと、正確に表現すること 誤字・脱字・表現			
15h30	悪い例のサンプル 私的、「・・・の方」、手紙?、話し言葉			
15h40	Q.「大学で学ぶことのメリット」 レポート課題(後で印刷して公開することを言っておくこと) タイトル:人の目標を評価することについて *欄外:番号・名前・ゼミ 1行おきに論述すること、ペン書き!			
15h45	テキスト(pp.76-92) 4月24日(月)17h00までに、松原研究室へ提出すること!!!			
16h00	カード記入			
資料等	カード、異紙(A4)、ルーズリーフ用紙(2枚)、悪い例サンプル			
備考				

児童学研究法 板書計画		対象：子1	第2講	2006年4月19日(水)
レポート (Report)				
読むこと・書くこと・分析すること まとめること・表現すること				
テーマ設定-構想-資料収集・整理-論述				
図書レポート 図書選定-読書メモの整理-批評・感想				
体験レポート 主題の付与-体験・記録-整理(-論述)				
研究レポート (後日)				
客観性 !				
メモ・反省点				

児童学研究法 講義計画	対象：子1	第3講	2006年4月26日(水)
題目	レポート作成(2)		
目標	レポートの作法を学び、きちんと体裁の整ったレポートを提出できるようにする。		
講義内容・学習活動・指導上の留意点			
時分			
14h40	カード・雑談 e-topia 参加呼びかけ		
14h50	プリント配布 各グループごとに討論(各研究室発表3分を予告)		
15h05	公開添削一発表		
15h40	テキスト pp.195-218.		
15h55	レポート課題		
16h03	カード記入		
資料等	カード、学生の作文プリント、メモ用紙、レポート課題、三脚、レポート用野紙(1人二枚) e-topia 関連資料		
備考			

児童学研究法 板書計画	対象：子1	第3講	2006年4月26日(水)
レポート	<p>目標：「だれに」「何を」伝える</p> <p>文章の要件—簡潔・平易・正確・変化</p> <p>表現態度—客観的・謙虚・慎重・明快</p> <p>序論・本論・結論</p> <p>記述・規則・用法等チェック</p> <p>仕上げ 推敲 題名 清書 ページ 綴じ込み</p>		
メモ・反省点			

児童学研究法 講義計画	対象：子1	第4講	2006年5月10日(水)
題目	研究開始！		
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の流れを把握し、今後の構想を立てる。 ・資料の探し方を理解する。 		
講義内容・学習活動・指導上の留意点			
時分			
14h40	雑談ー先々週できなかつた事項チェック&板書 (本日の板書計画には示さない。先週の方を参照)		
15h00	研究論文とは 研究論文の種類・作成の意義 (今後の予定について)		
15h20	ビデオ『新・図書館の達人2』		
15h45	グループ分け&テーマの決定 研究の進め方についての説明		
15h55	レポート課題		
16h00	カード		
資料等	カード、レポート課題、『新・図書館の達人2』、写真票、レジュメ様式 昨年度の発表会レジュメ集 研究テーマー一覧		
備考			

児童学研究法 板書計画	対象：子1	第4講	2006年5月10日(水)
研究論文			
文献資料	<p>図書館へ行こう！ーレファレンス・サービスへ！</p> <p>新聞記事 (生データ)ー即時性・事実の伝達 新聞・統計・調査・白書 etc.</p> <p>雑誌論文ー特定の視点からの分析 雑誌記事索引 etc.</p> <p>単行本ー全体の概要・分析・意義</p>		
メモ・反省点			

児童学研究法 講義計画	対象：子1	第5講	2006年5月17日(水)
<p>題目 マスコミ情報の批判的検討</p> <p>目標 ・TV番組を批判的に検討し、偏見や思いこみに左右される自分に気づく。 ・情報を無批判に信じ込まないような姿勢を身につける。</p> <p>講義内容・学習活動・指導上の留意点</p>			
<p>時分</p> <p>14h40 カード・雑談 5月20日の準備物の確認</p> <p>14h50 Q. 私の血液型は何でしょう？→カード配布</p> <p>14h55 ビデオ視聴（保育園の部分）</p> <p>15h04 カードに感想記入（上半分）→発表</p> <p>15h20 解説</p> <p>FBI効果→子どもからの出巻を！</p> <p>15h35 ビデオ視聴（特命リサーチ200X）</p> <p>15h48 →差別の構図？ ブラッドタイプ・ハラスメント</p> <p>16h03 カード</p> <p>資料等 カード、ビデオ（血液型）、特色をまとめたプリント、電卓</p> <p>備考 次週から図書館3Fで授業！</p>			

児童学研究法 板書計画	対象：子1	第5講	2006年5月17日(水)
<p>F Freesize</p> <p>B Labeling</p> <p>I Imprinting</p> <p>効 →先入観・思いこみ</p> <p>果 自覚のなさ</p>			<p>少数派差別 いじめの構図</p> <p>二重人格 × 9% AB わがまま × 22% B 社会的 ○ 31% O 几帳面 ○ 38% A</p> <p>ブラハラ（ブラッドタイプ・ハラスメント）</p>
			メ セ ・ 反 省 点

保育学研究法 講義計画		対象：子1	第6講	2006年5月24日(水)
題目	研究の方向性の決定			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各グループが協力して、研究の構想を立てる。 ・研究の見通しを立てる。 			
講義内容・学習活動・指導上の留意点				
時分	今日から図書館！			
14h40	カード・雑談	図書館への集合の仕方その他の注意		
14h50	リーダー	(連絡係兼) 決め		
14h55	グループ内での資料の交換、検討			
15h00	バス	<机間指導>		
15h20	小括			
15h30	バス	<机間指導>		
15h45	提出用紙まとめ 連絡者のメアドは必ず記入させること。			
16h03	カード			
資料等	カード、プリント「グループの研究テーマ一覧と今後の予定」「本日の課題」 罫紙 (A4)、メモ用紙、座席表			
備考				

保育学研究法 板書計画	対象：子1	第6講	2006年5月24日(水)
(プリントに)			
<p>メ セ ・ 反 省 点</p>			

保育学研究法 講義計画		対象：子1	第7講	2006年5月31日(水)
題目	研究の方向性の確定			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの絞り込み、分析の視点の明確化を通じて、研究の見通しを立てる。 			
講義内容・学習活動・指導上の留意点				
時分				
14h40	(カード・雑談) 諸注意			
14h50	バス 中間指導をしながら、適宜全体へ指導する。			
15h40	清書用紙配布			
16h03	カード			
資料等	カード、前回提出課題のコピー、さら紙、清書用野紙			
備考				

保育学研究法 板書計画	対象：子1	第7講	2006年5月31日(水)
(課題をプリントに)			
メ セ ・ 反 省 点			

保育学研究法 講義計画	対象：子1	第8講	2006年6月7日(水)
題目	研究の進展(1)		
目標	テーマの絞り込みを終え、内容構成を具体化する。		
講義内容・学習活動・指導上の留意点			
時分			
14h40	諸注意		
14h45	全体指導		
14h50	バス		
	個別グループ指導		
15h30	全体指導		
	バス		
	個別グループ指導		
15h55	全体指導ーレジュメ作成要領		
16h03	カード		
資料等	カード、レジュメ作成要領、過去のレジュメ、資料ファイル		
備考			

保育学研究法 板書計画	対象：子1	第8講	2006年6月7日(水)
メモ・反省点			

児童学研究法	講義計画	対象：子1	第9講	2006年6月14日(水)
題目	研究の進展(2)			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの絞り込みを終え、内容構成を具体化する。 ・中間発表の準備を整える。 			
講義内容・学習活動・指導上の留意点				
時分				
14h40	諸注意(時間変更)			
14h45	全体指導			
14h50	バス			
	個別グループ指導			
15h30	全体指導(必要があれば)			
	バス			
	個別グループ指導			
15h55	全体指導ーレジュメ作成要領			
16h03	カード			
資料等	カード、レジュメサンプル			
備考				

児童学研究法	板書計画	対象：子1	第9講	2006年6月14日(水)
メモ・反省点				

児童学研究法	講義計画	対象：子1	第10講	2006年6月21日(水)
題目	研究の進展(3)			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマの絞り込みを終え、内容構成を具体化する。 ・中間発表の準備を整える。 			
講義内容・学習活動・指導上の留意点				
時分				
14h40	諸注意			
14h45	全体指導			
14h50	バス			
	個別グループ指導			
15h30	全体指導(必要があれば)			
	バス			
	個別グループ指導			
15h55	全体指導			
16h03	カード			
資料等	カード、レジュメサンプル			
備考				

児童学研究法	板書計画	対象：子1	第10講	2006年6月21日(水)
				メモ・反省点

児童学研究法 講義計画		対象：子1	第11講	2006年6月28日(水)
題目	中間発表			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・発表を通して、発表の方法や聞き方をまなぶ。 ・他の研究室のレジュメおよび発表をみて、自分たちの研究を検討する。 ・磨きあう仲間意識を育む。 			
講義内容・学習活動・指導上の留意点				
時分	発表			
14h40	全体説明－発表の方法			
14h50	1ゼミ			
15h05	2ゼミ			
15h20	3ゼミ			
15h35	4ゼミ			
15h50	全体説明			
16h03	カード			
資料等	カード、資料			
備考				

児童学研究法 板書計画	対象：子1	第11講	2006年6月28日(水)
メモ・反省点			

児童学研究法	講義計画	対象：子1	第12講	2006年7月5日(水)
題目	研究のまとめ			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・全員で協力して、不十分な点を補う。 ・全員で協力して、レジュメ完成のめどをつける。 			
講義内容	学 習 活 動 ・ 指 導 上 の 留 意 点			
時 分				
14h40	簡単な説明			
14h55	バズ			
15h50	レジュメ作成要領他連絡 発表会に関する連絡ー北高校の生徒さんも参観！			
16h03	カード			
資料等	カード、プリント（レジュメ作成要領）			
備考				

児童学研究法	板書計画	対象：子1	第12講	2006年7月5日(水)
メモ・反省点				

児童学研究法	講義計画	対象：子1	第13講	2006年7月12日(水)
題目	研究成果発表会			
目標	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の発表方法を体験的に学習する。 ・発表会を通じて、自己の学習課題を発見する。 			
講義内容・学習活動・指導上の留意点				
時分				
14M0	発表会に関する簡単な説明			
14M5	開会—学生による進行 各ゼミの発表時間15分（発表10分+質問5分）ごとに1ゼミから4ゼミまで発表を行う。			
14M5	講評—参加教員から一言ずついただく。			
16M00	授業アンケート&カード			
資料等	レジュメ集、発表会用品いろいろ、ノートパソコン、司会者用マニュアル、授業アンケート、カード			
備考	発達科学部子ども発達学科研究授業			

児童学研究法	板書計画	対象：子1	第13講	2006年7月12日(水)
				メモ・反省点

高松大学紀要
第 48 号

平成19年 9月25日 印刷
平成19年 9月28日 発行

編集発行 高 松 大 学
高 松 短 期 大 学
〒761-0194 高松市春日町960番地
TEL (087) 841 - 3255
FAX (087) 841 - 3064

印 刷 株式会社 美巧社
高松市多賀町 1 - 8 - 10
TEL (087) 833 - 5811